

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2012年6月7日

No.24

会社：一昨年より厳しい。しかし頑張った人には報いる！
組合：収入計画の未達は経営責任！黒字達成は形で示せ！

夏季手当第4回交渉報告！

中央本部は、本日10時から第4回夏季手当交渉を行いました。今回は、前回の組合の要求根拠に対する会社の考え方を示しました。会社の考え方は以下の通りです！

- ①夏季手当に対する世間の動向は、JR他社は東日本2.55ヶ月、東海2.9ヶ月、西日本2.65ヶ月、九州2.53ヶ月、物流他社は、賃上げ交渉で交渉済みが大半である。
- ②会社の動向は、23年度は経常利益が黒字達成できたが、当期純利益が5億円の赤字の計上であった。一部の金融機関からは厳しい指摘も受けている。
- ③24年度に入り4月の運輸収入は対計画△5.8億円、5月が△4.9億円であり6月も6日現在の時点で△0.85億円である。開発部門も契約満了に伴う賃料減により対前年△27億円である。よって今後も収入確保に向けて取り組んで行く。
- ④欧州の金融不安による円高の影響や今後の経済も不透明であり、厳しい状況に変わりはない。
- ⑤以上の状況から、夏季手当に対する考え方は、24年度対計画△10億円の状況で、収入状況が不透明であり今後経費削減に努めていく。したがって一昨年の額（1.58ヶ月）は到底出せる状況にない。

これに対して中央本部は、会社の無責任な考え方を断じて許さず以下の点について糾しました。

- ①外的要素ばかりを理由にして社員に責任を転嫁することは許さない。我々の苦勞に対して会社は具体的な形で応えるべきである。
- ②23年度決算の当期純利益が赤字というが、経営陣の危機感は見られない。
- ③会社の収入計画に無理がある。収入計画未達は経営責任であり、それで手当が出せないと言うのは理由にならない。
- ④社員はギリギリの生活をしている中で手当は生活給である。会社は、業績給というのであれば黒字になったのだから生活給プラス業績給として支払うべきである。
- ⑤日々一生懸命頑張っている社員とそうでない社員とは区別すべきである。そして頑張っている社員に対して見える形で示すべきだ。
- ⑥我々の要求の根拠に対して会社は何も示していない。それで一昨年より支給も出来ないことは説明責任を果たしていない。社内で検討し回答指定日までに誠意ある回答を示すべきだ。

組合員のみなさん。会社は夏季手当交渉においても世間の動向や収入未達などと言った外的要因を理由に手当を抑制する無責任な対応に終始しています。しかし、その中であっても「頑張った人には報いる」と回答しています。私達は、23年度震災の影響や度重なる輸送障害の中で安全作業と安定輸送に努め経常黒字を達成しました。24年度に入り収入未達を理由に「職場の苦勞は理解する」との言葉でごまかし、苦勞に報いることをせず無責任な経営陣の姿勢に対して怒りを結集し、全組合員が一丸となって会社経営陣に突き付けようではありませんか！中央本部はその最先頭に立って闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回交渉（回答指定日）は6月14日（木）です。